

平成28年度市政だより掲載（ごみ分別関連）

杜のたより 市長コラム

みんなでWakeよう！ WAKE UP (Wakeアップ) !!

平成28年度、「仙台市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」の新たな目標による活動がスタートしました。皆さんご承知のとおり、仙台市のごみ総量は、震災以降、高止まりの状態が続いています。

震災前の平成22年度には年間36万7千トンでしたが、平成23年度に41万3千トンを記録し、昨年度は38万1千トン。平成23年度と比較し人口が3万3千人ほど増えたこと等も踏まえ、昨年度、目標を見直しました。

新たな目標では、ごみ総量を平成32年度までに36万トン以下、市民一人一日当たりの家庭ごみ量でみると、平成27年度の476グラムからさらに26グラム減らして、一人当たり450グラムにするという高い目標になっています。

ごみ総量が減らない理由の一つが、若年単身層の分別率が低く、紙類やプラスチック製容器包装等の資源物が家庭ごみに多く混入していること。そこで、平成28年度は、まずはそうした分別苦手世代の方々に気軽に分別

に取り組んでもらおうと、全市を挙げてキャンペーンを実施することにしました。それが、「WAKE UP!! 仙台 めざめよ！ごみ分別都市。」の大作戦。

新年度の皮切りとして、4月8日には、私が東北医科薬科大学の新生オリエンテーションにお邪魔し、仙台のごみ出しルールについて説明。新生は、医学部・薬学部合わせて約420名ですが、そのうち市外出身者が約半数。この4月から初めて一人暮らしをするという学生さんもたくさんおり、プラマークの見方や雑がみとはなど、入門編のお話をさせていただきました。

今後は、大学生を中心としたプロジェクトチームによる新たな3R（リデュース・リユース・リサイクル）推進ツールの開発や大学・コンビニ等と連携した紙類分別の推進など、知恵を絞って、若い世代の皆さんがごみに関連した情報に触れる機会が増えるよう努めてまいります。「分別なら任せて」というベテランの方々も、ぜひ、若い世代を巻き込んで、ごみ談義に花を咲かせてください。

仙台市長 奥山 恵美子

市政だより5月号市長コラム



森選手（左）と今野選手

WAKE UP!!
Wakeアップ! 仙台
めざめよ！ごみ分別都市。
楽天イーグルスも
エコ活動を推進！

今季も春から観客を熱狂させている地元仙台のプロ野球チーム「東北楽天ゴールデンイーグルス」。本拠地の楽天Koboスタジアム宮城では、2005年のプロ野球への新規参入以来、ごみの分別回収に積極的に取り組んでいます。球場内に7カ所設置されている「エコステーション」では、ボランティアが主体となつてごみを分別回収。これは、全国の球団の中でも初めての取り組みだそうです。

勝利を目指し、日々練習を重ねている若手選手が暮らす「犬鷲寮」にお邪魔して、福岡県出身の森雄大選手と地元宮城県出身の今野龍太選手にお話を伺いました。

「エコステーションのボランティアの皆さんは、社会貢献しながら楽



寮内では、共用の分別ボックスを利用しています

天イーグルスの活動を支えてくれてありがとうございます。とてもありがたいですね」と森選手。最近では、他の球団にもこの活動が広がっているそうです。

日頃のごみ分別について尋ねると「寮では廊下にある共用のごみ箱に分別して捨てています。また、普段の練習では、洗って使える容器にスポーツドリンクを入れていきます」と今野選手は教えてくれました。ごみを減らすためには分別も大切ですが、そもそもごみを出さないことも大切。普段の何気ない行動が、自然とエコにつながっていました。「実は、これまでごみ分別についてあまり深く考えたことはなかったのですが、これからは自分たちにできることを頑張ります」とお二人は話してくれました。



試合開催日に球場内に設置しているエコステーション

「WAKE UP!!」とは？ ごみ分別意識を呼び覚ますため、「目覚めよ！」と「分別向上」の二つの意味を込めた造語。「WAKE UP!!ごみダイエットチャレンジ」を実施します。詳しくは12ページ参照。

市政だより6月号コラム

WAKE UP!!
Wakeアップ! 仙台
めざめよ！ごみ分別都市。
「転勤族」もごみ分別、
がんばります！

▶ 同じ転勤族ということで意気投合した大山さん（右）と田代さん

▼ 大山さんの自宅の分別スペース

雑がみ

家庭ごみ

ペットボトル

プラスチック製容器包装

新聞などの紙類

缶・びん

仙台には転勤で引っ越して来た方が多く住んでいます。地下鉄東西線の開業を盛り上げるために始まったWAKE UPプロジェクトの一環で「転勤族チーム」を結成した、関東出身の大山宗之さんと田代智志さんにお話を伺いました。小さい頃から実家で分別を実践していたという大山さん。昔から雑がみの分別が得意だったそうです。「現在は一人暮らしで家が狭いのですが、台所に立体的なごみ分別スペース（左写真）を作り、きちんと分別しています」と自宅での取り組みを披露してくれました。「震災後、仙台のごみは増えていくと聞きました。市外から移って来た人もがんばらないといけませんね。転勤族同士で、ごみについても気軽に情報交換できる場がくれたらいいなと考えています」と二人は今後の目標を力強く語ってくれました。

「WAKE UP!!」とは？ ごみ分別意識を呼び覚ますため、「目覚めよ！」と「分別向上」の2つの意味を込めた造語。今後「Wakeアップ! 仙台」を合言葉に、ごみ分別に取り組んでいきます。

市政だより5月号コラム

WAKE UP!!
Wakeアップ! 仙台
めざめよ！ごみ分別都市。
地域全体で「ごみ分別」
クリーン仙台推進員

▶ 「大変だけど楽しく活動しています」と笑顔で話す早坂さん

▲ 春と冬の年2回、地域の皆さんで集積所を点検します

地域でごみの適正排出やリサイクル活動のリーダー的役割を担う「クリーン仙台推進員」として10年以上活動を続けている、南小泉町内会の早坂きみ子さん。地域で自主的に実施しているごみ集積所点検にお邪魔しました。

この日は、他の推進員や町内会の役員・班長、市職員ら50人が104カ所の集積所を巡回。ラベルが付いたままのペットボトルがないかなど、分別状況にも気を配ります。「点検後は全員で状況を報告し合い、結果を回覧板で地域の方にお知らせしています」と早坂さん。現状を地域全体で共有することで、分別意識が高まるそうです。

「私たちが集積所を掃除している姿を見て、きれいに使ってくれる人もいます。いずれはポスター等を貼らなくても、自主的に取り組んでくれるようになればうれしいですね」と今後の目標を話してくれました。

1人1日当たりの家庭ごみ 平成28年4月の家庭ごみ排出量は15,380トン、市民1人1日当たり475gでした。昨年4月は1人1日当たり502g、27gも減少しました！引き続き分別に取り組みましょう。
目標：450g

市政だより7月号コラム